

新規実施項目のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

さて、ALPとLDの測定法につきましては、日本臨床化学会(JSCC)より、『2020年4月1日より準備の整った施設より1年間で測定方法をJSCC法からIFCC法に変更する』との発表がありました。このため、弊社では、学会方針に基づきIFCC法試薬での検査受託を開始いたします。

なお、現行のALPとLDのJSCC法での受託は2021年3月末をもって中止とする予定です。

取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用のほどよろしく願い申し上げます。

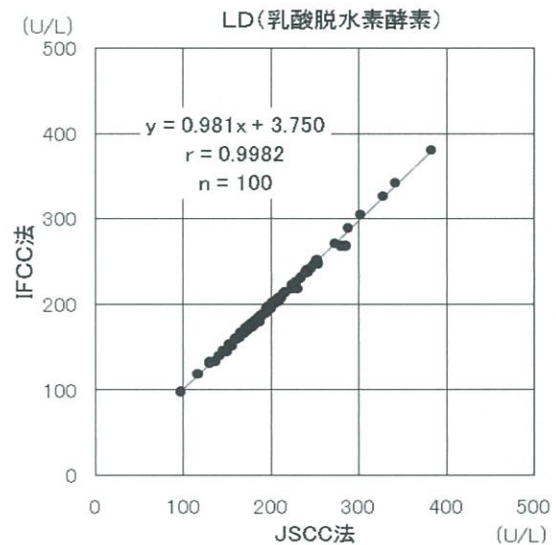
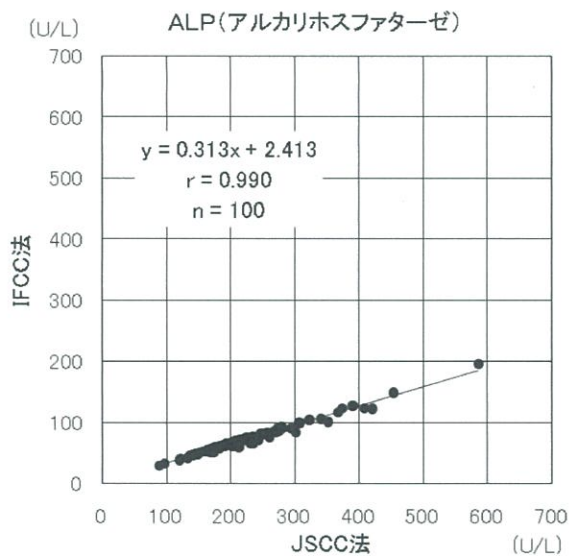
敬具

記

- 受託開始日 2020年4月1日(水)ご依頼分より
- 新規受託項目 ALP(アルカリホスファターゼ)／IFCC
LD(乳酸脱水素酵素)／IFCC
- 検査要項

項目コード	検査項目 JLAC10	検体 必要量	容器 保存方法	検査方法	基準値 単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
5143	ALP／IFCC (アルカリホスファターゼ) 3B070-0000-023-271	血清 0.5mL	A1-1 冷蔵	IFCC 標準化 対応法	38~113 U/L	1~2	11 生化 I	
5144	LD／IFCC (乳酸脱水素酵素) 3B050-0000-023-272	血清 0.5mL	A1-1 冷蔵	IFCC 標準化 対応法	115~245 U/L	1~2	11 生化 I	

▼参考 IFCC法 と JCSS法 の相関図



(自社検討データ)

【 IFCC法に関する補足事項 】

一般社団法人 日本臨床化学会の資料には以下のことが記されています。参考情報としてご案内します。

(1)ALPについて

○測定値が現行(JSCC法)の 1/3 程度の数値になります。

○変更前後の値の換算には限界があります。IFCC法に変更することで血液型B,O型では小腸型ALPを含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます。

(参考)

・JSCC法測定値からIFCC法測定値に換算： 0.35 倍

・IFCC法測定値からJSCC法測定値に換算： 2.84 倍

○ALPアイソザイム試薬についてもIFCC法に対応した新しい処方のもので発売されますので、そのIFCC法に対応した試薬での測定が必要です。

(2)LDについて

○LD5 優位検体では現行のJSCC法に対して低めの活性になります。

(LD5 が 50%の症例では測定値の差は 20%未満)

○JSCC 法測定値から IFCC 法測定値への換算はせずそのままの測定値を使ってください。